

# チェコ語と音楽

音楽家

## 出井則太郎

「言葉が音楽を生み、音楽が言葉を迎ぶ」

私がチェコでの生活で感じたのは、言葉を持つ音楽文化創造のエネルギーだった。チェコ人にとって言葉は音楽を愛する以前に大切な音楽そのものだ。自分たちのアイデンティティーである言葉を愛するチェコの民衆の下でチェコ音楽は生まれ、育まれ、そして今日々、名曲が誕生している。今回は言葉とチェコ音楽についてお伝えしたい。

### ヨーロッパの旅と言葉

旅先には必ず小型ラジオを持参している。どの国に行っても英語を話すのではなく、なるべく現地の言葉で話すことを心掛けている

私は、到着した国の言葉に慣れるために、空港から市内に向かう道中は決まってラジオを聴いている。

ヨーロッパの旅はラジオがあるとい味変わる。たとえば列車で国境を越える時、入国する国が近づくとき、その国の電波を受信し始める。ヨーロッパの国境越えは、なまの愛哲もない草原だったり、小さな村の先にあたり、車窓を見ていてもよくわからないことが多い。そんな国境付近は、互いの国の電波をどちらも受信できるので、曲のかけ方、ニュースの伝え方、言葉の響きやアナウンサーの声や雰囲気の違いなどが興味深い。



チェコ音楽の父、スメタナの墓(プラハ)

ンゲン条約加盟国)が増え、最近はその国境での入国審査もない。またインターネットの普及で情報もあつという間に国の境を越えていく。

各国の独自通貨も統合され、街も近代化されてどこも同じようになりつつあるし、昔のようにヨーロッパの国々を「旅」している楽しさは、やはり少し味気なくなっている。その中で、ラジオにはまだ国境や各国の文化の境界線がハッキリと存在するのは面白い。

### ラジオ放送とチェコの歌

ヨーロッパのラジオ局は、どの国も大体同じで真面目な国営放送(もしくは、それに準ずるラジオ局)が数局。ここにはたいいてい、ニュースを基本とする局、クラシッ

を浴びるように聴くのは、その土地に生まれた最初の音楽を聴いているようで、楽しい。

そんな私が衝撃を受けたのがチェコのラジオから流れるチェコの歌だ。

それまでにドイツやイタリア、フランス等ヨーロッパの国を旅していて、旅先でラジオを聴くのは当たり前になっていた。が、この国は他の国と少し違っていた。なにより、母国語の歌がラジオで流れる頻度がとにかく多い。

そして、歌詞の意味もわからないままに引き込まれる歌の魅力。大袈裟かもしれないが、他の国では感じたことのない力が歌にあった。

ヨーロッパの他の国のラジオは、たいてい司会者やラジオDJ



チェコ語が飛び交う街の市場(オロモウツ)

のトークの合間にかかる音楽で、アメリカやイギリス、つまり英語圏を発信源とするヒット曲ばかりだ。また、母国語ではなく英語で歌うミュージシャンも多い。

それはヨーロッパ各国の言葉で歌うより英語の方がカッコイイというミュージシャンの嗜好と、英語で歌うことで国境を越えたヒット曲を作ろうとするプロデューサー側の意図もあるようだが、そんな風潮のあるヨーロッパでもチェコ人はチェコ語で歌う。

決して、英語が使えないとか英語圏の歌が入って来ないという理由からではない。

たとえば、社会主義時代に西側の音楽が完全に禁止されていたように思われがちだが、ビートルズもクイーンもチェコで人気だった。当時のチェコでの流行歌は世界の流行りとあまり変わらないサウンドで作られている。

これは、政策や検閲とは裏腹に、チェコ国民も音楽家も意外と西側の音楽に触れていて影響を受けていたことを示している。また彼らは外国語で歌えないわけではない。今でも活躍している歌謡界のスーパースター、カレル・ゴット(Karel Gott, 1939-)のように、ドイツやオーストリアでも人気のチェコ人歌手もいる。過去に義務教育として教えられていたドイツ語やロシア語は今でも年輩の方が流暢に話すし、近年では若者を中心に英語が堪能だ。

しかし表現するための言語として、あえてチェコ語を選ぶのだ。そしてこの、あえてチェコ語で創作し歌うチェコ人ミュージシャンの在り方に、スメタナが活躍した

時代から変わることのない、祖国と言葉への愛情とチェコ人としての誇りを私は強く感じる。

## 生活と歌

チェコで生活を始めてから、ラジオから流れるチェコ語の歌の頻度にして驚いたのは、チェコ国内各地のミュージック・フェスティバルの多さだ。市庁舎前や、運動場、古城、大学の中庭など場所はさまざまだが、野外ステージが

生まれ、たくさんの方が集まり、歌い、踊る。春夏秋冬、季節は選ばない。彼らは、とにかく、歌う。歌うことでつながる。そこには、常に母国語の歌がある。これは言葉奪われた民族にしかわからない、言葉への愛だろう。

言葉への愛情が歌を生み、歌は言葉を選び、心をつなぐ。言葉を愛するからこそ、ひとつひとつの単語、ひとつひとつのフレーズに最高の音と旋律が与えられ、それは言葉を超えて人の胸を打つ。言葉を選べる人が歌うから、図らずも涙がでる。

かつて、民族復興と祖国独立の

情熱を芸術に昇華させたスメタナ。チェコ音楽を国際的に広めたドヴォルジャーク。モラヴィア民謡の研究から生まれた独自の音楽でクラシック界に衝撃を与えたヤナーチェク。彼らが音楽を祖国と郷土への愛とともに紡いだように、今もミュージシャンが歌を彼らと同じ言葉で紡いでいるのだ。そして彼らが紡いだ音楽は、言葉を選び続ける。

チェコには、チェコ語の歌がたくさんある。EU加盟後も独自の通貨、チェコ・コルナが健在だ。その、ひとつひとつが今は失われつつある古き良きヨーロッパの空気を残している。この国の古い街並みが数百年も変わらず愛されているように、チェコ語も歌とともにこの先もずっと愛されていくだろう。

チェコを訪れた時は、風景だけではなく音に耳を傾けてほしい。そこには、スメタナが、ドヴォルジャークが愛した祖国の言葉がある。数々の名曲を生んだ原点。その響きとリズムにチェコの長い歴史と音楽文化創造のエネルギーを感じてほしい。